

さいたま市長 9月定例記者会見

平成19年9月20日（木曜日）

午前11時02分開会

○ 進 行 それでは、記者クラブの皆さん、こんにちは。ただいまから定例記者会見を始めさせていただきます。

 それでは、幹事社の、きょうはNHKさん、ちょっと遅れているということで、東京新聞さん、よろしく願いいたします。

○ 東京新聞 幹事社のかわりを務めます東京新聞です。市長から報告をお願いいたします。

○ 市 長 皆さん、こんにちは。それでは、定例記者会見を始めさせていただきます。

 本日の発表議題は2件です。

 議題1「さいたま市の施策PRキャラクターがデビューします」についてご説明をいたします。

 市が行っております施策をわかりやすく、また親しみやすく市民に伝えるため、また市の魅力を積極的に内外へ情報発信するツールとして、政令指定都市で初めて、「市の施策PRキャラクター」を作成いたしました。

 10月1日発行の「市報さいたまんが」第1話から、漫画の主人公としてデビューをいたします。

 施策PRキャラクターの名称については、「つなが竜 ヌウ」としました。

 日本最大規模を誇る都心緑地空間「見沼田んぼ」の主の子孫という設定で、生まれ育った見沼（ミヌマ）から「ヌウ」と名づけました。

 アルファベットのエヌとユーであらわすnuという言葉には、フランス語で「飾り気のない」「素の」といった意味がありますことから、「キャラクターが飾らず、素のまま、市民の皆さんに愛されるように」という願いも込めております。

 また、「つなが竜」には、市の施策をわかりやすくお伝えをしたり、市民からの疑問にお答えするなど、市民と行政の「つながり」を深める役割を担う、そんな意味が込められております。

 お手元に配付いたしました、市報10月号に折り込み予定の「市報さい

たまんが」第1話でデビューした後、10月13日開催の「咲いたまつり」や10月21日開催の「消防フェア」など、各種イベントに着ぐるみが登場する予定となっております。

今後は、市民の皆さんに親しまれ、愛されるキャラクターとなるよう、市の施策紹介やイベントなどで積極的に活用してまいりたいと考えております。

お手元に市報に挟み込む第1話の「さいたまんが」が配られておると思っています。本編では、この警備員を小学校などに配置してありますよという施策を紹介しております。これは、一昨年ですか、始めた施策ですけれども、新しい施策だけではなくて、もう既に行われているもの、そして今市民の皆さんの役に立っているもの、こういったものの再確認も、こういった機会を通じてさせていただきたいなというふうに思っております。

議題1は、以上です。

続いて、議題2、さいたま市民まつり「咲いたまつり2007」についてお話をさせていただきます。

さいたま市民のお祭りとして定着をしてみりました「咲いたまつり」は、ことし節目となる5回目を迎えます、10月13日（土）に、さいたまスーパーアリーナ及び周辺で開催をいたします。

ことしは、アリーナを空間一体型のスタジアムモードといたしまして、1階から5階までを使って、すべてのイベントをアリーナに集結をいたします。

本年度メインイベントとして、日本各地の本場のお祭りを初め、本市からもさまざまな祭り・パフォーマンスを披露する「The MATSURI サミット」、さいたま市のうた「希望のまち」を歌うユニットのコンテストとアマチュアミュージシャンのコンテストを行う「THE 登竜門」、また、10区区民やきらびやかなドラゴンフロートなど、夕刻の新都心をパレードする「イルミネーションパレード」を行います。

そのうち、「The MATSURI サミット」は、新潟県関川村から全長82.8メートルの大もん蛇が1回目以来の登場となるほか、長崎市から「くんち」が初登場するなど、各地から13団体が参加をいたします。さらに、市内からは伝統芸能団が地元の「祭り」を初めて咲いたまつりの

場で披露するほか、小学校の金管バンドの演奏など、盛りだくさんの内容になっております。

また、「イルミネーションパレード」は、各区のバージョンアップしたドラゴンフロートを初め、The MATSURIサミット参加の竜や大蛇、「昇天竜」として竜神1号、2号の登場など、大きな出し物でにぎわうパレードとなります。

そのほか、サブイベントといたしまして、サッカーのまち「さいたま」から新しいサッカー文化を発信する「フリースタイルフットボールPRイベント」、アリーナ4階、5階で行う「フリーマーケット」などのイベントを行います。

特に「宝の地図スタンプラリー」は、5周年を記念いたしまして、ハワイ・ホノルルフェスティバルのペアチケット、長崎ペア招待券、木下大サーカス招待券など、豪華賞品が当たる企画となっておりますので、多くの方にご参加をいただきたいと思っております。

この「咲いたまつり」は、市民の皆さんが築き上げ、参加するお祭りでございます。多くの皆さんに親しんでいただけるものと考えています。

なお、来年度は、国内、海外のよりすぐった地域伝統芸能の披露の場となる、全国規模のイベントである「日本のまつり」が、「咲いたまつり」と同時開催となることで決定をしております。日にちは10月11日（土）、12日（日）の予定でございますので、あわせてご報告をさせていただきます。

議題については以上でございますが、この「日本のまつり」というのは今全国各地を次々とやっている、国が全体的にやっているお祭り、これが来年はさいたま市に来てくれるということで、咲いたまつりとドッキングをして行おうと、こういうことありますので、かなり大がかりなお祭りになるんじゃないかなと、こんな期待もいたしております。

議題については、以上です。

○ NHK

ありがとうございます。遅くなりまして、幹事社のNHKです。よろしく申し上げます。

今、市長から説明があったことについて、各社さんご質問がありましたら、お願いいたします。

○テレビ埼玉 PRキャラクターの件なんですけども、こういったキャラクター、今全国の自治体でゆるキャラと呼ばれて、埼玉県でもコバトンがいたり、滋賀の彦根市でも「ひこにゃん」というのがいて、結構自治体のPRに一役買っていると思うんですけれども、市長、このヌウ君に寄せる期待について、一言お願いできますか。

○市長 そうですね。先ほど申し上げましたように、この目的というのはやはり市が行っている施策、これをわかりやすく市民に伝えたい、また市の魅力を積極的に内外へ発信するためのツールということで考えているところがあります。何というんですかね、架空の動物は動物なんですけども、何となく龍神っぽくていいのかなと。前回の記者会見のときに、宝くじの図案の話を見せてもらいましたけれども、あれもスーパーアリーナと書いてあってですね、両方に龍がしっかりかかれていますけども、見沼の龍というのはある程度市のイメージとして定着もしてきたのかなという感じがしております、その発展的なことでこのヌウというものが登場してまいりました。

市のイメージキャラクターということではなくて、いわゆる施策PRキャラクターであるという位置づけでございますので、よろしく願いをいたしたいと思っております。

コバトンのほうはですね、あれはちょうど埼玉国体のときに、非常にいいと。何を着せても何をやらせても、さまになるんですね、あれがね。ですから、国体のときにいろんな競技があって、弓を引いたり、馬に乗ったり、かけたりですね、いろんなことをやっていたけども、知事と、あれ非常にいいから、あれ県のキャラクターにしたほうがいいんじゃないですかなんて話したら、それはいいことだというんでね、それで著作者の了解をもらって、それで今県がいろんなPRに使っておられますけど、あれは非常に親しみがあっていいなと、この子も皆さんに親んでもらえるといいなというふうに思っています。よろしく願いいたします。

○埼玉新聞 このヌウのキャラクターのデザインは、どういった方がされたんですか。

○市長 デザインはですね、これは専門家なんですけど、このキャラクターですけれども、一般公募でなくてですね、これは商業デザイナー、いわゆる専門家の方につくっていただきました。施策PRキャラクターですから、市の

施策や事業を幅広い分野にわたって市民にとってわかりやすい情報発信を行うということが主な目的ですので、親しみのわくデザインとする必要がありまして、専門的知識としてのデザイン力、ノウハウ、こういったものが不可欠でありましたので、だから一般公募ということも考えたんですけども、一般公募ではなく、専門家の方のデザインとさせていただきました。

幾つか候補が上がってまいりまして、その中で職員のアンケートをとってみたい、また市民のアンケート、ちょっと一部の人にとってみたいの中で、一応一番個性があるのがこれなんじゃないかというようなことで、このヌウ君に決定をしたということでございます。

- 埼玉新聞 ネーミングについても同じような形ですか。
- 市 長 そうですね。ネーミングは、ネーミングについては幅広い年代に受け入れられる、また市民と行政のつながりを深めるといったキャラクターの役割を踏まえてですね、覚えやすく親しみのわく名称として「つなが竜」、つながるという意味ですね、「つなが竜（りゅう）ヌウ」に決定をいたしました。先ほどもちょっと申し上げましたが、日本最大規模を誇る都心緑地空間「見沼たんぼ」の主の子孫という設定で、生まれ育った見沼のヌをとって「ヌウ」ということでございます。それほど際立った理由というのは別にありません。ぬうっと出てきたから「ヌウ」ですけども。
- 埼玉新聞 イベント等、着ぐるみが登場するご予定ということですけども、コバトンとの共演とかというのものもあるんですかね。
- 市 長 県と市が共同主催の何かあればね、共演があると思いますね。これは、楽しみですよね。ハトより龍のほうが強いんじゃないかなと、勝手に思っていますけれども。
- 東京新聞 咲いたまつりについてなんですが、イベントの中で、ことし何か初めてされるようなイベントがあれば教えていただきたいのと、あとあえて目玉というなら、どれが目玉でしょうか。
- 市 長 そうですね。先ほどもご説明の中で申し上げました、ことし始めて来るというものについてはですね、「くんち」ですね。長崎からの「くんち」、これが参加をしてくれると。それから、関川の大したもん蛇ですね。これ第1回目のMATSURIサミットのときに、関川のほうから全部人も来

てくれてですね、とにかく村の男性の若手がほとんど来ちゃったというふうな、それくらいの規模のやつなんですけれども、これが再登場ということで、これもですね、非常に喜ばれるんじゃないかなと私は思っております。特に今回はスタジアムモードにしてですね、上のほうから見られますんでね、上のほうから見た場合に、大蛇が非常に長いというのよくわかってくれると思うんですね。その辺が大きな目玉だろうというふうに、1つは思っています。

そして、今お話し的是ですね、目玉は何かということですが、やはりダイナミックなパレードのイルミネーションパレードということになるかと思っておりますし、また竜神1号、2号の2体の昇天竜が登場するというので、これもドームのですね、空間の中に浮かびますから、これもかなり見ものじゃないかなと。先ほど申し上げた関川村の大もん蛇ですね、これが82.8メートルという長さですから、これ。それから、田沢湖の龍神祭りの龍、大きな龍や大蛇の出し物が多いということと、それから盛岡のさんさ踊り、それから先ほど申し上げた初出場の長崎「くんち」など、にぎやかに参加をしていただきます。また、各区のですね、ドラゴンフロート、これも年々パワーアップして、大分またグレードアップしていますので、これも楽しみにしていただきたいなというふうに思っています。

○ 朝日新聞 祭りの、見込みでいいんですけど、観客といいますか、動員数というのはどれぐらいを見込んでいらっしゃるのでしょうか。

○ 市長 去年がどのくらいですかね……

○ 事務局 37万(人)

○ 市長 37万(人)ぐらいですね。ことしも、だから約40万(人)前後。でもただ、ことしは1日開催だから、多少は減るんじゃないかなと思いますけども、まあ30万(人)前後を見込んでおります。

○ NHK 各社さん、よろしいでしょうか。

それでは、幹事社として代表質問のほうに移らせていただきたいと思います。質問は、まとめて行わさせていただきますので、よろしく願いいたします。

今回質問2つになりますが、まず1点目、学力テストの結果公表について

てということでお伺いします。

ことし4月にですね、実施されました全国学力テストの結果について、9月下旬に文部科学省からですね、公表されるという見通しになっていますが、学力が低下していると言われていた中で、実証的なデータとして注目を集めています。その一方で結果の公表をめぐっては序列化につながるという懸念もされてきていて、このため文科省のほうでは都道府県別のデータの公表をするにとどめていて、それ以外の細かいデータは都道府県とか市町村さん、学校さんのほうの判断に任せるとなっているかと思えます。その点ですね、さいたま市ではこの学力テストの結果の公表について、どのように発表する方針か、またその理由はこういった点かと、あとはですね、その学力テストの結果を受けて、新たな取り組みを始める予定などはございませんかという点をまずお伺いいたします。

それと、2点目はですね、先般話題になっていますが、妊婦さんの受け入れ拒否問題についてなんです。同じような問題がですね、千葉県だとかいろんなところであったりということが判明して、社会問題としてクローズアップされていてですね、さいたま市さんでですね、過去に同様のケースがあったのかなかったのか、またこうした問題を防ぐために何か対策を講じていらっしゃったら、それもあわせて教えていただければと思います。

○ 市長 それでは、まず学力テストの結果の発表についてお答えをさせていただきます。

この全国学力・学習状況調査（学力テスト）の公表についてのお尋ねですが、さいたま市では児童生徒一人一人が今後の学習の目安として役立つため、また保護者や地域住民に対して説明責任を果たすため、国の公表内容に準じ、市全体の結果として、実施をした教科別、国語、算数・数学の平均正答率や各設問別の平均正答率などを公表いたします。

なお、学校の序列化や過度の競争を助長することにつながるおそれが懸念されることから、学校名などが特定をされる公表は行わないということといたしております。

また、児童生徒一人一人に対しては、文部科学省から直接、学校を通じて、設問ごとの正答や誤答の状況などわかる個人票が返却をされます。

市全体の結果の公表方法としては、さいたま市教育委員会学校教育部のWebページや教育委員会広報誌などを予定をいたしております。

今後の取り組みということですが、全国学力・学習状況調査の結果を受け、学識経験者や小・中学校及びPTAの代表者などで構成をする「さいたま市検証改善委員会」からの提言を、授業研究を通じて検証していくことで、さいたま市教育委員会が推進をしている「学びの向上さいたまプラン」、これをさらに充実をさせてまいる、このような予定であります。

それから、2問目の妊婦の受け入れ拒否についてです。

「さいたま市でも、過去に同様のケースがあったか」についてですが、さいたま市において、産科の救急搬送は平成17年中が329件、それから18年中が385件となっております。最初に搬送を依頼し、医療機関に収容された件数が、17年は303件、18年は354件で、ともに全体の92%となっております。すなわち、92%がまず第1の病院で受け入れてくれたと、こういうことです。また、3回以上受け入れを断られた件数は、17年が3件、18年が1件で、搬送中、特に支障となることはなかったということでもあります。

しかしながら、最近かかりつけ医を持たない妊婦の増加、それから産科医の減少、これらが社会的な問題になっておりまして、受け入れ拒否やたらい回しを防ぐための対策についてですが、今後も迅速な搬送ができますよう、より正確な医療情報の把握に努めるとともに、母体の健康を保ち、胎児の健全な発育を促すため、妊婦がかかりつけ医を持つことの重要性について、引き続き啓発に努めてまいりたいというふうに思っております。

さいたま市の場合は、周産期医療センター、こういったようなものもですね、市立病院の中に設置をしてございまして、ある意味ではかなり高度な病状にも対応できるということにはなっておりますけれども、さりながらですね、やはり妊婦の方がかかりつけ医で定期的な健診を受けて、その経過を医師が把握をしているということが非常に大事なことになってまいりますので、最近特に飛び込みで、全然健診を受けていないで、いきなり出産ということで飛び込んでくると、こういうふうなことも間々見られますので、やはりその辺は母親になる自覚を持っていただいでですね、おなかのうちから、中にいるうちからしっかり育てていただきたいなというふ

医療費が払えないような、そういう方に対する支援だったわけですが、今回所得制限を撤廃するという事は、少子化対策というふうな観点を変えてですね、今非常に少子化と言われて久しいわけですが、特にさいたま市の場合は全国平均や県平均のレベルにもちょっと達していませんので、何とか産み育てていただきたいという意味を込めてですね、そのような所得制限を撤廃をさせていただきました。

あとは、年齢等について今検討しておりますけど、なるべく高い年齢までいけるといいなというふうに思っております。

- 朝日新聞 この撤廃は、来年度からということではよろしいのでしょうか。
- 市 長 そうですね。予算措置が必要ですから、当初予算で、4月からということになります……
- 副市長 4月からやることを含めてですね。
- 市 長 4月から、ああ、含めてですね。なるべく早い時期にやりたいなと思っておりますけども。準備ができればね、4月からやりたいんですけど、準備ができるかどうか、デリケートなところもある。なるべく早くということきり、今ちょっと申し上げられないんですけども。
- 埼玉新聞 出産のことのお話にちょっと戻りますけども、先ほど乳幼児医療の引き上げの中で少子化対策というお話ありましたが、これと出産のほうとちょっとリンクさせてですね、もうちょっとその出産に関する補助を手厚くしてもいいんじゃないかという気もするんですが。出産後30万(円)でしたっけ、今バックするようなシステムにはなっていますけども、実際入院すると、それ以上の金額は必ずかかりますので、ただで出産できると申し上げませんが、もうちょっと産みやすい状況というのを行政のほうでバックアップが必要かなとも思うんですけども。
- 市 長 まあ検討事項ですね。これはね。できればそういう方向でいきたいなどは思いますけども、いろいろ予算措置、その他がありますので、検討をすることの1つだろうというふうに思っています。
- 埼玉新聞 新都心の8のA街区のことでお伺いしたいんですが、先週公募があつて、5件来たそうなんですけども、もう提案については目を通されましたか。
- 市 長 ざっと目を通しました。
- 埼玉新聞 さいたま市の希望としては、やっぱりサッカーミュージアムということ

を……

- 市長 うん。それも、だから全提案に入っていました。
- 埼玉新聞 それは、もう5件のうち、全部そうなって……
- 市長 はい。ただ、埼玉県のほうでいわゆるスーパーアリーナ等の補助システムというのか、補完機能で会議室だとか、それからちょっとしたコンベンションのあれだとか、そういったものを県のほうは希望されていて、そういうのも5社とも全部ですね、入っております。
- 埼玉新聞 個別の案件はちょっとわからないんですが、ざっと見ての印象はいかがでしょうか。
- 市長 そうですね。さまざまな提案がありまして、これから検討委員会で検討してもらおうという段階ですので、個人的にはあれがいいな、これがいいなというのはありますけれども、今の段階ではちょっとまだ申し上げられないということでご理解いただきたいと思っています。
- 朝日新聞 もうお話しになっているのかもしれませんが、来月の10日に浦和駅東口にパルコが入って再開発ビルがオープンしますけれども、そのオープンによってですね、さいたま市の経済と浦和の経済にとってどういう影響があるかという、市長のお考えをお聞きしたいんですけど。
- 市長 東口の再開発ビルがね、オープンをするということで、直接的にはかなりの経済効果といたしますかですね、これが見込めると。今幾らぐらいの予定でしたっけ、あれは。
- 事務局 売り上げですか。
- 市長 売り上げが。
- 事務局 195億(円)。(※8月8日パルコ記者会見発表)
- 市長 195億(円)、年間ね。195億円という目標をお立てのようですねけれども、それが達成するとすればですね、それが市内のほかの、要は例えば伊勢丹とかコルソに行っている人が買いに行くのか、よそから買いに来てくれるのか、その辺はまだちょっとふたをあけてみないとわかんない部分があるかと思っていますけど、市全体としての経済効果はかなり見込めるんじゃないかなというふうに思っています。
- 東京新聞 関連してなんですが、その浦和駅周辺の、例えば小規模の商店街とかの皆さんは、逆に売り上げが減るんじゃないかといった影響も心配されてい

と思うんですが、その点についてはいかがでしょうか。

- 市 長 それはあると思いますね。ある意味では、民対民の競争ですから、その競争に負けないように個性を打ち出してですね、しっかりやっていただきたいなというふうに思っています。
- 埼玉新聞 この間の中央政権の動きなんですけども、安倍首相の辞任表明からの印象と、現在の市長から見た印象ですね、それとあと今度の日曜日に自民党の総裁選がございますが、これからの総裁、次期首相に期待するようなところをちょっとお聞かせ願いたいんですが。
- 市 長 安倍首相の辞任というのは本当に突然のことですね、ただただびっくりしたというのが正直なところであります。

後継の総理に期待するということについては、いわゆる小泉改革の光と影の、その影の部分はどうフォローしていくかということが一番大きな問題だろうというふうに思っております、格差是正でありますとかですね、過度な競争をある程度スピードを緩めてやるとか、いろんなそういう日本人の体質に合った改革というんでしょうか、そういったものが必要になってくるのかなというふうに思っていますが、いずれにしても参議院議員が野党の民主党が過半数を占めておられますので、いろんな政策がですね、政策的な予算というんですかね、新しい政策を打ち出すということがかなり困難な状況がこれから出てくるのかなという感じがいたしております。
- NHK ほかにご質問ございますでしょうか。

ないようですので、以上をもちまして、本日の記者会見を終了させていただきます。
- 市 長 どうもお疲れさまでした。
- 進 行 ありがとうございました。これをもちまして、定例記者会見を終了とさせていただきます。ありがとうございました。

午前11時38分閉会